

2024年度 メリー★ポピンズ朝霞南ロルーム 事業報告書 (保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

「子どもを真ん中に」を常に意識し、子ども一人ひとりの成長発達を日々の生活の中や園内研修、職員間での対話を通して理解を深めた。子どもの育ちを共有していくなかで、保育計画や日々の保育において生かされなかった場面もあり来年度への課題として残る。

また、日課の意味やねらいを園内研修などで話し合い大人が背中を見せながら継続実践をしたことで、子どもたちも以前より積極的に日課に参加をするようになった。保護者に対しても行事やポートフォリオなどを使用して日課のねらいや取り組みについて発信することができた。

次年度も継続して発達過程を学ぶなかで子どもたちに真に必要な経験とは何かを考え、子どもたちが自分らしさを大切に、いきいきと過ごせる保育園にしていきたい。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子ども一人ひとりに寄り添う丁寧な保育
	実践結果	日々の子どもの姿や成長を昼礼や園会議などで共有し、子どもの姿に対してどのように関わり援助をしていくのかを話し合った。
	次年度方向性	引き続き継続実践していく。 共有で終わりにせず、日々の保育に生かせるよう振り返りに重点を置く。
2	計画・ねらい	子どもの姿を捉えた保育計画の作成、実践、振り返りのPDCAサイクルの定着
	実践結果	一人ひとりの発達を捉え保育計画に落とし込む。実践・振り返りのなかで次の計画につなげられるよう全職員で意見交換を日々行った。 個々の発達を捉えて理解していくなかで、未だ保育計画に生かされておらず課題として残った。
	次年度方向性	引き続き継続していくなかで、保育計画の作成のポイントや実際に保育に生かされるようなサイクルを定着させる。
3	計画・ねらい	子どもの姿に応じた意欲を引き出す環境づくり
	実践結果	環境係をつくり、子どもの日々の姿に合わせた物的環境について定期的に話し合い改善を続けた。以前は集中して遊べない子や走り回る子が多かったが、改善を続けていくなかで少しずつ落ち着いて過ごせる室内環境をつくることができた。
	次年度方向性	引き続き環境係を中心とした子どもが主体的に遊べる室内環境を話し合い設定していく。それに加えて大人との関わり方についても環境構成の一つとして組み込んでいく。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者との信頼関係の形成
	実践結果	お迎え対応等日々顔を合わせる保育者として、保護者との信頼関係を築き、子どもたちの成長を共に喜び、共に悩みながらサポートしていくようにした。 職員によつての保護者対応の差があり、利用者アンケートでご意見として残る。
	次年度方向性	保護者対応の園内研修を積極的に取り入れ、全職員がどの家庭に対しても丁寧にお迎え対応ができるようにする。
2	計画・ねらい	親子交流行事の充実
	実践結果	新型コロナウイルスも落ち着き、積極的に親子交流行事を取り入れることができた。保護者の参加率も高く、行事のなかで子育て相談や日々の保育について気軽に話せる雰囲気がつくれた。
	次年度方向性	今後も保護者を巻き込んだ交流行事を積極的に取り入れていく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	保育園を知っていただく
	実践結果	地域交流係をつくり、係が中心となりまずは保育園を知っていただくために何をするのか、宣伝方法から話し合いを重ねた。 少しずつ参加率も上がるが、継続して来ていただける方は少ない。
	次年度方向性	継続してまた来たいと思っていただけるために一度参加した家庭に対しての次回開催周知をするシステムをつくる。 職員全員が地域交流行事の担当を経験する。
2	計画・ねらい	子育て家庭の支援
	実践結果	園見学などを通して子育て相談などを行った。 寺親屋と園解放は参加者がおらず来年度への課題として残る。
	次年度方向性	職員の得意分野を寺親屋にするなど、職員全体で取り組む。 法人の保育サービスについて全職員が理解をし、地域の方に伝えられるようにする。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	発達過程の理解
	実践結果	子ども一人ひとりの姿を深く観察し、どのような発達が見られるのかを共有・話し合いをした。共有で終わってしまい、保育にどのように生かしていくのか、環境設定や大人の援助については課題が残った。

	次年度方向性	子どもを見る・発達を理解し共有するから、話し合いを重ね保育計画に生かせるようサイクルを定着させる。
2	計画・ねらい	学びのアウトプット
	実践結果	MBO で設定した職員一人ひとりの取り組みについて全体で共有はしたが、学びについての共有はできなかった。
	次年度方向性	引き続きMBO設定後は全体で共有をし、進捗確認を定期的に行う。園内研修の時間を設け、職員の学びを共有する。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食材や食の循環を知る
	実践結果	農業計画通りに畑の管理をし、子どもたちも積極的に畑仕事にかかわることができた。 収穫した後の野菜がそのままになることや、冬場は畑に触れる機会が少なかった。
	次年度方向性	連続性を意識し種まき～収穫、収穫したあとのクッキングまで全員がかかわれるように計画的に行事を行う。 冬場でも日課として畑仕事に子どもたちがかわれるように畑係が中心となり計画を遂行する。
2	計画・ねらい	食べ残しを減らし、再利用できるしくみを知る
	実践結果	毎月の計測や分析を重ねた結果、昨年度に比べ少しずつ残渣が減った。 年度末に1歳児もバイキング給食を取り入れたことにより、残渣量が増えることがあった。
	次年度方向性	調理・施設長だけでなく全職員が残渣量を把握する。 バイキングででは子ども一人ひとりの喫食具合をこまめに共有し、個々に合わせて量を調節することを意識する。

〈6〉原点回帰

1	計画・ねらい	日課・基本活動の定着
	実践結果	日課の意味や大切さについて職員間で共有し、継続して日課に取り組むことができた。 登園が間に合わず継続して日課に参加できない子に対して、保護者に声掛けはしていたが、理解されない場面もあった。
	次年度方向性	引き続き継続実践をする。 保護者に対して日課の取り組みについて発信し、8:30までの登園をお願いする。
2	計画・ねらい	大人が背中を見せる環境

人数													
うち0歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成（3月1日時点）

常勤スタッフ	保育士	7人	看護師	0人	栄養士	0人	調理員等	1人
パートスタッフ	保育士	1人	看護師	1人	調理	0人	事務	0人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園内研修
給食運営会議	月1回	食育、離乳食、アレルギー食、喫食状況の共有、課題提案
事故防止委員会	月1回	インシデント、ヒヤリハットの分析、自園を含む全園でのケーススタディと改善策
ケース会議	0回	今年度は開催なし
保健会議	月1回	感染症、マニュアル確認、感染予防、衛生知識

〈2〉 出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	月1回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉 系の設置状況

系名	活動の様子・省察
衛生管理係	園内の汚染区域の衛生管理、備品管理
安全対策係	環境、玩具の点検・環境安全整備
防火管理者	避難訓練の立案、見直し・設備の防火管理
食品衛生管理係	食品管理、食育計画の立案、調理室の衛生管理
畑係	畑の情報収集と発信・年間食育計画実行のための発信
生き物係	動植物の管理の発信・それにおける備品等管理

〈4〉 行事系の設置状況

系名	活動の様子・省察
朝霞市民祭り係 彩夏祭	鳴子隊の招集・他園との連携

4. 保育支援

〈1〉 保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	日々の保育の「ねらい」を意識することで、子どもたちにとってどんな環境を用意すればいいのか、保育者はどのように関わったらいいのかなど、基本的なことに立ち返り職員一人ひとりが自身の保育を見直すことができた。必要以上の言葉掛けや関わりが減り、子どもたち主体の生活を重ねることができた。
保育参加	4～3月まで 合計4名 が参加済み (3月1日時点)
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計1名 が参加済み (3月1日時点)
運営委員会	第1回運営委員会を6月23日に当園にて実施し、参加した保護者2名 第2回運営委員会を11月24日に当園にて実施し、参加した保護者2名 詳細は議事録に記載

〈2〉 計画した年間行事の振返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉 給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	大人と子どもが一緒に食事をする
	実践結果	新型コロナウイルスも落ち着き、今年度より職員が子どもと一緒に給食を食べることができるようになった。 子どもとの対話のなかで自ら進んで食べる意欲が育まれた。
	次年度方向性	引き続き継続実践する。
2	計画・ねらい	自分で決める、自分で選ぶ
	実践結果	2歳児から段階的にバイキング給食を取り入れた。 子どもの成長発達に合わせて継続的に話し合いを重ね、子どもと大人の動線などの環境設定・声の大きさなどの人的環境なども配慮することができた。
	次年度方向性	今年度の実践を踏まえて来年度へ生かしていく。 子どもの個々の状況をみながら寄り添うことを徹底する。
3	計画・ねらい	野菜の下処理・クッキング

実践結果	野菜の下処理は年度途中から取り入れた。 クッキングは積極的に行ったが、収穫した野菜を計画的に使用することができなかった。
次年度方向性	朝の日課と共に日常的に取り組めるようにする。 クッキングでは畑・食育係を中心に計画的に実行し、火を使う経験を増やす。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月20日／11月27日に実施
歯科検診	6月14日に当園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 7月21日に園にて熱中症対策について理解を深める ② 6月16日に園にて水遊びの事故防止、心肺蘇生法の確認を実施 ③ 4月20日に園にて嘔吐処理手順確認を実施
流行した感染症	① 10月に水疱瘡、園児12名蔓延し、課長へ報告 ② 6月にRS ウイルス、園児10名感染報告有り。6月9日に終息
発作・痙攣等の対応	該当園児なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・4月20日に当園にてエピペン研修をスタッフ4名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ10名のうち、10名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・4月20日に当園にて AED 研修をスタッフ4名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ10名のうち、10名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検(定期1回/3年)	業者による対象物の定期点検 2023年実施済み
	フロン点検(簡易)	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿/毎日	毎日実施
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 /保険証期限確認	年2回/4・10月 ⇒4月、10月に実施済み
	身長体重測定	毎月1回/20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回/6月20日、11月29日 歯科健診 各年1回/6月14日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回/4・10月の園会議時 ⇒4月21日、10月20日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	遊び込める室内環境
	実践結果	他園に行き室内環境の見学や意見交換をして学びの機会をつくり、環境係を中心に定期的な環境設定の見直しを行うことができた。
	次年度方向性	物的環境に加え、大人のかかわりなどの人的環境にも意識をもち取り組む。

2	計画・ねらい	子どもが安心できる環境
	実践結果	子どもの発達に合った玩具の設定をすることで、子どもたちが落ち着いて過ごせる室内環境づくりができた。
	次年度方向性	引き続き子どもの姿や発達にあった玩具の設定を行う。 近隣園へ行き、環境設定への取り組みを学ぶ。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

該当なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災訓練 実践結果	消防計画に基づき毎月1回避難訓練を行う。避難経路の確認、消火活動の実施、保護者への発信等を行う
2	防災設備点検 実践結果	消防計画に基づき自動火災探知機、煙感知器、誘導灯、排煙窓の点検
3	防犯対策 実践結果	消防計画に基づき、年2回不審者侵入訓練
4	マニュアル設置 実践結果	マニュアル NO3 危機管理マニュアル設置
5	事故防止 実践結果	ハザードマップの随時見直し、怪我発生時の対応フロチャート設置、ヒヤリハット報告書、インシデント報告書、事故記録簿作成是正振り返り共有

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

該当なし

〈2〉実習生の受入

該当なし

〈3〉中高生の受入

該当なし

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	21日 10名	19日 10名	16日 10名	21日 10名	18日 10名	15日 10名	20日 10名	17日 10名	15日 10名	19日 10名	16日 10名	21日 10名
子どもの発達研修	21日 10名	19日 10名	16日 10名	21日 10名	18日 10名	15日 10名	20日 10名	17日 10名	15日 10名	19日 10名	16日 10名	21日 10名

〈2〉外部研修への出席

対象研修参加なし

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	21日 1名
施設長勉強会	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	21日 1名
全社員研修	9月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域交流係が中心となり、行事の宣伝方法の見直し・全職員が積極的に声掛けを行った結果、前年度より多くの来訪者に来ていただけたことができた。

まだまだ気軽に立ち寄れるような園にはなっていないが、引き続き園の良さを伝え続けると共に、地域の子育て相談の場所となれるよう職員一人ひとりが自身の保育力を磨いていく。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：あかね公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：朝霞郵便局、朝霞中央図書館、お父さんのパン屋さん、トヨタレンタカー、セブンイレブン、ファミリーマート、ほっともっと、ウエルパーク、ポニークリーニング、サーティワンアイスクリーム、すき屋、ブランジュネージュ、丸亀製麺、築地銀だこ、コーギーコーナー、東武ストア、うちで花園、出雲大社、広沢神社、デンキチ等
世代間交流	毎月1回に朝光苑にてシニア交流を実施
異年齢交流	11月19日に当園にて大学生交流を実施
その他活動	10月16日に当園にて異文化交流を実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

該当なし

10. 要支援児

今年度、対象園児なし

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2名	3名	3名	6名	3名	4名	8名	12名	8名	9名	2名	2名	62名

実施項目	詳細
園開放	(月)～(金) 9:30～16:30 にて実施
子育て相談	(月)～(金) 13:00～16:30 ⇒計0件相談実施済み
自然食堂	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計9回実施済み

親子ランチ 交流	参加者延べ人数													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	0名	0名	0名	2名	2名	0名	2名	2名	6名	2名	2名	1名	19名	
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週（水）10:00～12:00 ⇒計5回実施済み 参加者延べ人数													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	2名	2名	2名	4名	0名	1名	11名	
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置													
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行													
青空保育 （支援セン ター主催）	月1回 公園名：あかね公園にて 以下日程にて実施													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	2名	3名	3名	1名	1名	4名	4名	3名	0名	3名	2名	1名	27名	

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2023年10月20日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：8時30分

自己評価終了時刻：17時30分

自己評価実施者：施設長、保育士、調理師

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

保護者の満足度は比較的高く、園を信頼し、利用していただけている印象が強い。

保育内容について、まだ知られていない活動も多いため、次年度は園から積極的にお知らせしていきたい。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉 報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉 報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：メリー★ポピンズ朝霞南ロルム 施設長 黒沢果穂